

弓削商船高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	校内練習船実習
科目基礎情報						
科目番号	1A19		科目区分		専門 / 必修	
授業形態	演習		単位の種別と単位数		履修単位: 1	
開設学科	商船学科		対象学年		1	
開設期	集中		週時間数			
教科書/教材	弓削丸完成図書、実習の手引き、実習ファイル、その他配布書類等					
担当教員	松永 直也,宮本 宝					
到達目標						
航海・機関に関する運航技術の基礎訓練を他の授業の進捗度合いに合わせて行い、船内生活を体験し船舶職員としての資質を涵養し、国際的な船員を目指す。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
出入港作業		作業を理解し積極的に参加している		作業を理解している		作業に参加していない
甲板機器、機関室内の主要機器		機器の名称と配置を理解している		機器の名称を覚えている		機器の名称を覚えていない
クロスベアリングによる船位決定		正確に短時間で求められる		船位を正確に求められる		船位を求められない
配管識別調査		実際の配管を見て配管の識別ができる		配管の識別色を理解している		配管の識別色を理解していない
学科の到達目標項目との関係						
専門 A2 専門 E1 専門 E2						
教育方法等						
概要	練習船弓削丸を実際に運航し、当直業務等実船同様の運航の中で、稼働している船内機器・設備を通して基本的な原理、使用方法や管理の仕方について実習を行う。 また、班ごとの船内生活を通して環境の適応及び自己管理能力の向上を目指す。					
授業の進め方・方法	班ごとに教室講義と船橋、制御室講義に分けて実習を行う。 各港間の当直業務、出入港作業等実際の機器を使用した実習を行う。					
注意点	十分に周りの危険に注意を払い緊張感をもって実習に取り組むこと。 危険を伴う実習のため指定された服装を厳守のこと。（学則遵守） 養成施設引当て科目（単位）： 航海コース「航路標識(0.1),地文航法(0.1),天文航法(0.1),船体の構造(0.1),当直(0.1),操船(0.1),船舶の出力装置(0.1),船位通報制度(0.1)」 機関コース「当直・保安(0.1),船内作業の安全(0.1)」 免許講習引当て時間：レーダー観測者講習（講義1）、救命・機関救命講習（講義1） 第一級海上特殊無線技士(0.8時間)					
実務経験のある教員による授業科目						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	実習の概要、船内生活についての説明 船体要目調査		船の概要を知る	
		2週	船体要目調査		船の概要を知る	
		3週	防火・防水及び総端艇部署配置		非常時に備え配置を確認する	
		4週	船橋当直要領		船橋当直の概要を理解する	
		5週	クロスベアリングによる船位決定法		クロスベアリングによる船位測定を理解する	
		6週	クロスベアリングによる船位決定法		クロスベアリングによる船位測定を理解する	
		7週	クロスベアリングによる船位決定法		クロスベアリングによる船位測定を理解する	
		8週	レーダー観測・航路標識		概要、航路の標識の種類を知る	
	2ndQ	9週	船位通報制度について		船位通報制度について概要を理解する	
		10週	地文航法の基礎		海図の見方、取り扱いを理解する	
		11週	機関要目の理解		主機関、発電機等の要目を理解する	
		12週	機関室内主要機器配置		機関室内機器配置図を作成する	
		13週	機関室内主要機器配置		機関室内機器配置図を作成する	
		14週	配管識別調査		船内の配管系統識別色を理解する	
		15週	配管識別調査		船内の配管系統識別色を理解する	
		16週				
後期	3rdQ	1週				
		2週				
		3週				
		4週				
		5週				
		6週				
		7週				
		8週				
	4thQ	9週				
		10週				
		11週				
		12週				
		13週				

		14週		
		15週		
		16週		

評価割合							
	試験	小テスト	実技	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	40	0	20	40	0	0	100
知識の基本的な理解	40	0	20	0	0	0	60
態度・志向性(人間力)	0	0	0	40	0	0	40
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0